

取組実績の概要 【2ページ以内】**交流プログラムの内容**

東京藝術大学は、世界的に希少価値が高く魅力的な芸術文化リソースを有するトルコのミマル・シナン美術大学及びアナドル大学、現代美術分野で傑出した国際的知名度を誇るイスラエルのベツァルエル美術アカデミーとの連携により、「多様性」を基軸に、異文化に対する深い理解と造詣、「芸術文化外交」に発展させることのできる素養やコミュニケーション能力を有する、社会实践型のグローバルな芸術家の育成を目指して活動を行った。

派遣事業については、中東情勢の悪化により中断せざるを得ない時期があったが、その期間は受入事業に重点を置き、本学の取手キャンパスの工房などを活用しながら、受入学生に日本文化への深い理解や「ジャパンオリジナル」の習得に配慮した、多くのプログラムを行った。また、連携大学の教員がイスラム圏の文化に関する講義等や、中東と日本のそれぞれのアイコンをテーマにしたワークショップなどにより、異なる価値観、歴史、宗教等について思索しつつ、制作を行う実践的な指導を行った。実施にあたっては、本学の広範なネットワークを活かし、デンマーク、ドイツ、オーストラリア、シンガポールなどの本学協定校の教員・学生も交え、西欧、オーストラリア、東南アジアにも対象を広げた「ボーダレス」な交流を行い、当初目的として掲げた、他国の芸術文化や歴史等に対する理解を基盤に、自らのアイデンティティを持ちつつ、豊かな表現力や想像力を発揮して将来的に芸術文化外交の担い手となるようなアーティストの育成プログラムを完遂した。

<互いの文化の理解を深めることを目的としたプログラムの例>

- ・招へい教員による「ラスター彩（イスラム圏の陶器）」に関する特別講義
- ・本学デザイン科教員による日本の「箸」に着目した日本の食文化と道具をテーマとした講演
- ・陶芸家や美術館学芸員、アーティスト・イン・レジデンス等との、異文化との出会いやそこから生まれる芸術活動の模索についての意見交換会

<日本の伝統技法等の「ジャパンオリジナル」の修得を目的としたプログラム>

- ・本学取手キャンパスの工房群「Factory Lab」等のリソースを最大限に活用した、「登り窯実習」、「和紙の紙すきワークショップ」、日本画の技法（扇状画の技法）実習、本学邦楽科教員による能の所作、武者小路千家家元による「茶の湯」レクチャーを含む本格的な日本文化体験プログラム
- ・本学の専門分野の教員が直接的な指導のもとで日本の国宝・重要文化財を間近に鑑賞する「古美術研究旅行」や陶芸家の工房への訪問

<異文化理解能力の促進を目的とした構築したプログラム>

- ・日本と中東を象徴する二つのアイコン「梅」と「オリーブ」をテーマにしたデザインワークショップ
- ・日本・中東以外の学生も交えたフィールドワークを含む都市空間の差異に関する建築ワークショップや場と彫刻に関するワークショップ
- ・各自の作品・活動、大学の相違等を英語で語り合う公開型のトークセッション
- ・本学協定校であるドイツ・ミュンスター美術アカデミーとの共催による彫刻ワークショップ
- ・本学協定校であるシンガポール・ラサール芸術大学との共催によるリサーチ・制作ワークショップ

質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

- ・各交流プログラムの設計には海外での活動実績を多数有する、デザイン、ガラス造詣、建築、先端芸術表現、彫刻などの専門分野の異なる教員に加え、海外大学との国際共同カリキュラムの構築を進めているグローバルアートプラクティス専攻の教員が携わり、本学の充実した工房設備を最大限に活用したワークショップや本学と社寺の信頼関係で長年実施している「古美術研究旅行」等を組み込んだ。
- ・学生の評価においては、本学が実技指導において厳格に実施している「講評会」の仕組みを本事業においても取り入れた。本学と連携大学の教員のみならず、外部のアーティストも同席するなか、学生が自分の作品についてプレゼンテーションを行い、教員からのコメントに加えて学生からの批評も交えてディスカッションを行うことにより、創作活動の質の保証と教育的効果を高めるものであり、高品質なアクティブラーニングの側面も持つ。
- ・各国のカリキュラム制度を考慮し、原則としては修学時間と評定を記載した履修証明書を受入留学生

に交付し、必要に応じてETCSに換算した履修証明書を付与した。相互に単位認定する受講科目・履修順序については、実践プログラムの実施を積み上げながら、双方の教員間で検討を行った。

- 本学の有する広範なネットワークを活用し、「上野の杜」文化新構想でも関係の深い東京都美術館の文化事業の現場や美術館、工房等への訪問をプログラムに組み込み、芸術家や学芸員、アーティスト・イン・レジデンスで活躍するアーティストらと、学生たちが意見交換を行う機会を設けた。
- 事業の取組状況について、教育担当理事や各学部・研究科長から成るグローバル戦略推進委員会において毎年度確認・成果を分析し、さらに元文部科学大臣や企業経営者、美術館等の外部委員から成るグローバル戦略評価・検証委員会において外部評価を実施し、PDCAサイクルにより事業を実施した。

外国人学生の受入および日本人学生の派遣のための環境整備

- 本事業に専属する教員を2名配置し、連携大学や関係機関との調整に加えて、参加学生に対し、渡航前のガイダンスや安全教育等を含むきめ細やかなサポートを行った。日本人学生には、アーティストとしての自身や自分の作品を英語で発信する力を養成する講座や海外渡航時の危機管理セミナーを行い、外国人留学生にはTA/RAや留学生支援チューターの配置などを通じた修学・日本滞在支援、宿舍確保、奨学金支給による経済的サポートを行った。なお、アナドール大学とはエラスムス+プログラムの協定を締結し、参加学生の経済的支援を拡充した。
- また、外国人学生には、実技授業カリキュラムや、授業の進め方、修得する技法に関する資料専攻内で授業中適宜配付し、本事業によるプログラムが履修体系上どのように位置づけられているか理解できるように配慮した。なお、本学では授業風景の画像付きシラバスを導入し、視覚的に授業の内容を理解できるようにしている。

事業の実施に伴う大学の国際化と情報の国際、成果の普及

- 本事業の概要に加えて、個別の活動レポートを平成27年に開設した大学WebサイトGeidai×Global上で公開するとともに、多数のイラストや活動写真を織り交ぜた成果報告書を毎年度作成し、5年間を通じて事業の意義や方向性を明確に位置づけた広報活動を実施した。これらは日英両語で行った。
- 平成28年10月には、トルコでの第4回フェスティバル「国際ガラス工芸フェスティバル」に本学教員が参加し、事業の成果普及に努めた。なお、その際は、本事業の枠組みで長期派遣を経験し、さらに私費留学で滞在していた本学日本人学生が芸術祭のインターンとしてトルコ語通訳を務めた。
- 平成29年度には全国の10以上の芸術系大学・研究機関によるガラス教育機関合同作品展G. E. N (-Glass Educational Network-) に派遣プログラムの参加学生の作品を出品し、他大学への成果普及を行った。
- 平成29年6月には、連携大学ベツアルエル美術アカデミーが中心大学の一つとなって日本・イスラエル国交65周年を記念し、イスラエルで開催された「イスラエル日本学会」に本学学生・教員が参加し、本事業の取組や成果について共有を図り、事業最終年度の令和元年は、他の採択大学（東京大学・東京工業大学・福島大学・新潟大学）と合同で「最終成果シンポジウム」を開催し、皇族の三笠宮彬子女王殿下、在京トルコ大使、日本・トルコ協会総裁が臨席するなかで、3連携大学との交流実績を発表するとともに制作したガラス工芸作品の展示等を行った。

【本事業における交流学生数の計画と実績】

(単位：人)

	2015年度		2016年度		2017年度		2018年度		2019年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入								
計画※	11	10	17	14	25	22	28	23	30	25	111	94
実績	2	13	1	18	9	18	7	16	22	18	41	83

※海外相手大学を追加している場合は、追加による交流学生数の増加分を含んでいる。

特筆すべき成果（グッドプラクティス）【1ページ以内】

■異文化理解・人材育成交流を通じた国際舞台での“芸術文化外交”の推進



①トルコで開催された国際ガラスフェスティバルでのデモンストレーション
②日本イスラエル国交65周年を記念したイスラエル日本学会（IAIS）カンファレンス ③④採択校合同シンポジウムと出展作品



⑤異文化比較デザインWS ⑥多国籍学生らによる彫刻WS ⑦多国籍学生らによる都市空間WS ⑧多国籍のOB/OG教員との交流イベント

自国の芸術文化と相手国の芸術文化の双方、あるいはそれぞれの国の魅力や課題等を学ぶ、異文化理解を促進させるための多数の教育プログラムを実施した。さらに国際芸術祭・カンファレンスでの芸術活動・社会実践を通じ、国際学会や要人が臨席する場での発表を行うことで、日本と中東地域の“芸術文化外交”の担い手の育成を推進した。

■我が国唯一の国立総合芸術大学のリソースを生かした本格的「ジャパンオリジナル」の修得



①古美術研究旅行 ②和紙の紙すきWS ③登り窯実習 ④伝統技法授業を受講した留学生による作品



⑤能楽体験 ⑥日本画・扇状画の実習 ⑦伝統的ガラス工芸WS（日本）⑧同（トルコ）

本学取手キャンパスに整備した工房施設の機能を最大限に活用した「登り窯実習」「紙すきワークショップ」や、本学がその前身である「東京美術学校」の時代より継続して実施している「古美術研究旅行」において専門の教員から、国宝・重要文化財等のレクチャー、各種の日本文化体験プログラムを通じ、連携大学の学生に日本古来の美意識や歴史への理解、伝統技法を習得させる機会を設けた。

■ボーダレスな「Diversity Crossing（ダイバシティ・クロッシング）プログラム」



①②ドイツで行った彫刻WS ③シンガポールで行った現代アートWS ④デンマーク・コリングデザイン大学との合同WS

本学がハブになり、イスラエル・トルコの連携大学の教員・学生と、デンマーク・コリングデザイン大学、オーストラリア・ボンド大学、シンガポール・ラサール大学、ドイツ・ミュンスター美術アカデミー等の、中東地域に留まらない教員・学生が一つの場所に集い、ワークショップや作品展示等を通じて、互いの国の芸術や伝統の技、その背景にある歴史を知り、相互理解を深める機会を設けた。